

No	日付	事象	機種分類	機器分類	資料	ページ等	コメント内容	コメント対応	回答日	完了
1	12月12日	SCC	-	-	本冊	17	1号炉において応力腐食割れに対して実施した改善工事を全て説明すること。(上蓋取替、SG交換が記載されていない)	原子炉容器上蓋取替、蒸気発生器取替について、総括報告書に記載する。		
2	12月12日	フレッキング疲労	ポンプ	ターボポンプ	共通事項 補足説明資料	別紙8-2	焼め軸のフレッキング疲労曲線の外挿方法を説明すること(疲労限14.7N/mm ² をどのように外挿して求めたか説明すること)。	補足説明資料の別紙8-2-1に追記した。		
3	12月12日	FAC	熱交換器	蒸気発生器	共通事項 補足説明資料	6-1-6	No. 54 流れ加速型腐食により機器の健全性に影響を与える可能性は小さいと評価している。発生可能性があるならば△②となるのではないか。	△②は点検を実施することで機器の健全性を維持している事象であるが、本事象は評価において健全性を確認しているものであるため、△①となる。		
4	12月12日	疲労割れ	ポンプモータ	高圧ポンプモータ	共通事項 補足説明資料	6-1-7	No. 66 回転子棒・エンドリングに発生する応力と疲労強度を示すこと。			
5	12月12日	SCC	容器	加圧器本体	共通事項 補足説明資料	6-1-9	No. 85 電力共同研究で実施した定荷重試験の結果を示すこと。	別紙8-5-1に記載済みである。		
6	12月12日	SCC	容器	加圧器ヒータ	共通事項 補足説明資料	6-1-10	No. 91 応力腐食割れが進展することは考えたいと評価しているが、発生可能性がある場合は△②と区分すべきではないか。			
7	12月12日	SCC	容器	補機タンク	共通事項 補足説明資料	6-1-11	No. 109 評価内容は高浜3,4号炉と同じく、SCCが発生しない理由は使用温度が低いためではないか。適切な説明を記載すること。	回答資料 高浜1号炉一その他-7のとおり。		
8	12月12日	FAC	配管	炭素鋼配管	共通事項 補足説明資料	6-1-13	No. 123 第25回定期検査までに実施した配管減肉の点検結果を説明すること。また、最大の減肉率の箇所を例に、今後の対応を説明すること。併せて、残存寿命が最も短い配管系統を示すこと。			
9	12月12日	ばねの変形	弁	リフト逆止弁	共通事項 補足説明資料	6-1-19	No. 206 ばねの変形が弁の機能に影響しなくとも発生可能性がある場合は△②と区分すべきではないか。	発生の可能性がないことの説明として、これまでにばねの応力緩和に起因する不具合が発生しておらず、今後もこの傾向が変わることはないことから発生の可能性は低いと考えられることを追記する。その上で、△①評価のままとする。		
10	12月12日	腐食(全面腐食)	ケーブル電気設備 電気設備	ケーブル接続部 コントロールセンタ 計器用分電盤	共通事項 補足説明資料	6-1-25 6-1-27 6-1-57	No. 268, 304, 616 銅に錫メッキを施した設備で腐食(全面腐食)に対する△①と△②の評価の違いを説明すること。			
11	12月12日	伝熱管のSCC	熱交換器	サンプルクーラ	共通事項 補足説明資料	7-1-1	No. 7 1次冷却材に触れるステンレス鋼は△①と評価しているが、伝熱管は▲となる理由を説明すること。	いずれにおいても、応力腐食割れの可能性は小さいと評価しているが、ステンレス鋼配管の方は溶接部の点検を実施しているため、△①としている。		
12	12月12日	温度計ウェル等のSCC	配管	ステンレス鋼配管	共通事項 補足説明資料	7-1-2	No. 23 ステンレス鋼配管母管の内面からの応力腐食割れに対しては△①と分類しているが、温度計ウェル等の応力腐食割れは▲と評価している。評価が異なる理由を説明すること。			
13	12月12日	SCC	熱交換器	蒸気発生器	別冊	14	「…、冷却材出入口管台の応力腐食割れに対しては、定期的に溶接部の超音波探傷検査、浸透探傷検査および渦流探傷検査により有意な欠陥がないことを確認し、…」と記載されているが、UT、PTに加え、定期的に渦流探傷検査も実施しているのか。	蒸気発生器出入口管台の一部に、管台形状によりUT探傷不可範囲があるため、代替措置として内面からの渦流探傷検査を実施することとしている。		
14	12月12日	SCC	配管	ステンレス鋼配管	別冊	-	1次冷却材が接するステンレス鋼配管の製作時に補修溶接または手直し溶接が行われた箇所の有無を説明すること。有の場合はその箇所に対する対応を説明すること。			

高浜1号炉 高経年化技術評価に係る審査コメント反映整理表(その他)

No	日付	事象	機種分類	機器分類	資料	ページ等	コメント内容	コメント対応	回答日	完了
15	12月12日	その他	容器	加圧器	別冊	3等	2023年10月9日に、米国のバロベルデ原子力発電所1号機の加圧器・温度計用管台溶接部（管台及び溶接金属の材質は、共にNi基合金）から冷却材の漏洩が確認されている。 この事象に関連して、以下を確認する。 ①図2. 1-1の構造図等に記載されている計測用管台とは、レベル計用管台、温度計用管台及びサンプル用管台を総称しているのか。 ②レベル計用管台、温度計用管台及びサンプル用管台について、それぞれの管台本体と溶接金属の材質（管台は材料名）。	①ご認識のとおりです。 ②3つの管台及びその溶接部の材料は同一であり、以下のとおり。 管台の材料：SUS316TB相当材 貫通部内側の溶接部の材料：SUS304相当材		
16	12月12日	その他	容器	加圧器 ヒータ後備用	別冊	9	表2. 2-1中「チューブ」の材料 “インコネル合金” とは、どのような材料か。	600系ニッケル基合金である。 なお、評価書に記載の「インコネル合金」は商標名であり、不適切であったため、「600系ニッケル基合金」に修正する方針である。		
17	12月12日	その他	容器	脱ほう素塔	別冊	12	表2. 2-1(1/2)中、「ベントノズル」の材料欄が空白のため、記載すること。	「ステンレス鋼」を記載する方針である。		
18	12月12日	その他	弁	リフト逆止弁	別冊	40	「3.2.7 ばねの変形（応力緩和）」の評価は、“高浜4号炉”の評価となっている。1号炉の弁で評価すること。	“高浜4号”は誤記のため“高浜1号”に修正する。なお、評価の内容に変更はない。		
19	12月12日	その他	機械設備（原子炉容器上蓋付属設備）、 原子炉容器	ラッチハウジング +RV蓋管台	別冊	16等	ラッチハウジングと原子炉容器ふた管台との溶接部に係る評価については、原子炉容器及び機械設備のどちら側でも読み取れないので、評価を実施するとともに、評価書に記載すること。	ラッチハウジングと原子炉容器ふた管台との溶接材料には690系ニッケル基合金を使用しており、原子炉容器のP.9「(4)蓋用管台および空気抜用管台の応力腐食割れ」の中で評価をしている。 しかし、ご指摘のとおり読み取り難いため、原子炉容器P.4の表2.1-1に、蓋用管台の使用材料に溶接金属も含めて記載することとし、以下を追記する方針である。 【追記】 ラッチハウジングとの溶接金属は690系ニッケル基合金		
20	12月12日	腐食（全面腐食等）	電源設備	非常用DG付属設備容器 （燃料油貯油槽）	別冊	16	当該容器に施工されている消防法に基づいた塗装及び当該容器は土中埋設されているため、その塗装がバクテリア腐食にも耐久性を有していることを説明すること。また、当該容器と平成22年7月8日付けで消防庁危険物保安室長から発出された「既設の地下貯蔵タンクに対する流出防止対策等に係る運用について」との関係の説明すること。	燃料油貯油槽は地下のタンク室内に設置され、タンクの周囲には乾燥砂が充てんされているため土壌に直接接触しておらず、また、タンク室のコンクリート自体も防水措置が講じられており外部の土壌や地下水・雨水と接触しないことから、バクテリアによる腐食は想定していない。 燃料油貯油槽は「既設の地下タンクに対する流出防止対策等に係る運用について」の通知発出後に設置された設備であり、当該通知にある改正内容を含んだ消防法に基づき外面塗装を施している。なお、本設備の外面塗装はエポキシ樹脂だが十分な板厚を確保しており、当該通知に定める腐食のおそれが特に高い地下貯蔵タンクには該当しない。		
21	1月18日	FAC	配管	—	概要パワポ	—	高浜発電所1号炉の主な改善にある「二次系配管取替」について具体的な取替実績を説明するとともに、PLM40での長期施設管理方針のうち「炭素鋼配管の母管の腐食（流れ加速型腐食）」における対策工事との関係もあわせて説明すること。また今後の「二次系配管取替」の予定についても説明すること。			